

公益社団法人日本臨床細胞学会
2024年度第2回理事会 議事録

日 時：2024年6月7日（金）16:00～18:00
場 所：大阪国際会議場 10階 1009号室・WEB同時開催

役員総数： 43名（理事 40名、監事 3名）

出席総数： 理事 39名

（理事）（現地） 岡本 愛光、阿部 仁、有廣 光司、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、伊豫田 明、大平 達夫、川名 敬、近内 勝幸、齋藤 豪、佐藤 之俊、澁木 康雄、下田 将之、進 伸幸、田尻 琢磨、都築 豊徳、豊田 進司、長尾 俊孝、中村 直哉、西野浩治、羽場 礼次、藤井 多久磨、前田一郎、三上 芳喜、宮城 悦子、森井 英一、森定 徹、森谷 卓也、柳田 聡、山上 亘、山口 倫、山下 博、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子、渡利 英道

（理事）（WEB）板持 広明、柳田 聡

出席総数： 監事 3名

（監事） 長村 義之、佐々木 寛、土屋 眞一

（細胞診専門医会会長） 青木 大輔

（膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ） 平林 健一

（総務委員会幹事） 片岡 史夫、星 利良

（総務委員会幹事）（WEB）和田 直樹

（制度審議委員会幹事） 佐々木 陽介

本理事会は、定足数の半数以上（理事 40名中 39名出席）を満たしたので有効に成立した。テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す。

本理事会の開催にあたり、*岡本 愛光 理事長、*森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集、認定試験、検査士、国際交流、IAC、渉外]、*田畑 務 副理事長[教育、学術、財務、専門医、臨床研究]の挨拶および報告が行われた。

*理事長報告・挨拶（岡本 愛光）

今回、素晴らしい会場で第65回春期大会を準備していただいた森井 英一大会長に御礼申し上げます。多様性がはぐくむ細胞診の未来ということで、充実したプログラムとなっており明日よりのセッションが楽しみである。本日は、2027年度春期大会の大会長選出や評議員候補をお認めいただくような重要な審議もあり、よろしくお願ひしたい。

*副理事長報告（森井 英一、田畑 務）

森井 英一 副理事長： 事務局をはじめ、様々な活動をしている。順調に進んでいると思われる。各種委員会も活発に行われている。

田畑 務 副理事長： 子宮頸がん検診におけるHPV単独検査法が本年4月より開始となった。それに対応すべく本学会としても色々なワーキンググループを作り準備を進めている。ご協力をいただくことが多くあると思われるが、よろしくお願ひしたい。

前回（2024年度第1回理事会）議事録について

2024年度第1回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告（2024年05月22日現在）

全会員数：13,093名

（正会員 5,611名、準会員 7,229名、名誉会員 40名、功労会員 200名、図書会員 13件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,188名（実数）

（認定：細胞診専門医 4,131名、細胞診専門歯科医 124名）

FIAC：71名 MIAC：23名

細胞検査士数：8,185名（実数）（認定 11,513名）

CT(IAC)：3,878名

物故会員（2024年04月17日～2024年05月22日）

正会員 おがわ まきとし 小川 雅利 殿（小川産婦人科医院）

準会員 きどの たかし 城殿 隆 殿（（一社）半田市医師会健康管理センター）

きかもと みか 坂本 美果 殿

きぶり あゆみ 佐分利 あゆみ 殿（株式会社メディック）

とびた やよい 飛田 弥生 殿（独立行政法人国立病院機構岩国医療センター 臨床検査科）

なかしま えいこ 中嶋 永子 殿（シミックソリューションズ株式会社 新規事業本部）

わたなべともひろ 渡邊 友宏 殿

黙禱

第65回春期大会会長挨拶（森井 英一 大会長）

現地に多くの先生方にお越しいただき感謝申し上げます。多様性がはぐくむ細胞診の未来というテーマで、色々な分野の講演を組むことができた。Shinchita Roy Chowdhuri先生による特別講演、青木 大輔先生を中心に本学会で行ってきたCITRUS studyの報告会、それ以外にも会長企画として北海道大学の畑中先生にゲノム医療についてお話しいただく予定となっている。今朝の段階で、参加登録者が7,000人に達したということで感謝申し上げます。

大会準備状況

第63回秋期大会（進 伸幸、幕張メッセ、2024年11月16日（土）～17日（日））、第66回春期大会（田畑 務、京王プラザホテル、2025年6月27日（金）～29日（日））、第64回秋期大会（有廣 光司、広島国際会議場エリア、2024年11月29日（土）～30日（日））、第67回春期大会（宮城 悦子、パシフィコ横浜ノース、2026年6月12日（金）～14日（日））、第65回秋期大会（前田一郎、

幕張メッセ、2026年11月22日(日)～23日(月・祝)の準備状況に関する報告が行われた。

【常置・各種委員会から報告】

総務委員会 (委員長 進 伸幸) 【資料あり】

〔報告事項〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。
2. 本年度の理事候補者選出を電子投票にて行う準備を進め、すでに、施行細則と理事候補選挙に関する申し合わせについては理事会、制度審議委員会にて承認されている。理事候補者選挙の業務を委託するワオワールド社とすでに2回直接面談にて諸問題の検討済みである。
3. 2024年4月16日に総務委員会をweb開催し、主に理事候補者選挙の電子投票の準備について、報告と質疑が行われた(資料1)。準備状況については特に異議はなかったが、評議員に送付される、投票のためのIDとパスワードを紛失した場合、事務局へどう問い合わせするのか、疑義が寄せられ、問い合わせ方法、問い合わせ時期の期限など事務局に確認する必要があることが指摘された(後日事務局に確認し、締め切り日、問い合わせへの対応など検討するとのことであった)。

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会 (委員長 川名 敬) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 5月17日17:00- ホームページ作成会社のインターグループと打ち合わせを行う。以下の点を要望し承諾をえた。
 - ① 現在のHPの問題点を修復する大幅改定を希望
 - ② 事務レベルでアップなどができるようにして欲しい
 - ③ PC・スマートフォン・タブレットでも見やすいレスポンスデザイン
 - ④ デザインは全体にシンプルにして欲しい
 - ⑤ HPの入り口は職種(医師・細胞検査士・専門医・一般など)で分ける
 - ⑥ 下層である専門医会を中に入れる
 - ⑦ ホームページのトップページのデザインは理事会のメール会議の投票で決めたいので3タイプ程度作成して欲しい
 - ⑧ 300万円の費用に合わせた情報量の絞り込みは、約950ページ(現在)から約150ページ程度を考えている
 - ⑨ 2025年3月までに改訂の終了

〔審議事項〕

なし

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 学会賞・技師賞・班研究課題の応募結果のイエローページへの掲載。（応募締切：2024年6月28日（金）必着）

〔審議事項〕

なし

計理委員会（委員長 山下 博）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 総会后、6月末までに内閣府へ2023年度の定期書類を提出する予定である。
2. 2024年9月頃、秋の監査会を開催予定である。

〔審議事項〕

なし

編集委員会（委員長 都築 豊徳）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 日本医師会国際課 JMA Journal 編集室より、JMA Journal の査読等に関する協力依頼があった。日本医師会が日本医学会との協力で発行している英文医学総合オンラインジャーナルであり、査読依頼があった場合はご協力をお願いしたい。

〔審議事項〕

1. 報告事項2の案件につき、編集委員会で討議を行った。多くの画像系学会ではホームページ上に代表的な症例を掲載し、学会会員の教育のみならず非会員の勧誘手段の一つとなっている。日本臨床細胞学会ではそのようなサイトがない。日本臨床細胞学会雑誌に代表例による症例集を掲載し、広く日本臨床細胞学会の存在を示す機会を作りたいと考えている

WEBよりも雑誌が有利な点として、

- ① テキストとして印刷可能、
- ① 学習者がPDFとして持ち歩き書き込みも容易である（学習に向いている）、
- ② 学会のサーバー容量を考慮する必要がない（具体的にどの程度の容量が必要かが不明なため、前回の懸案であった川名理事への聞き取りが出来ていない）、

等が挙げられる。

今後検討すべきかの検討行って頂きたい。

審議結果⇒承認（編集、学術、資格試験、広報の委員会を中心にワーキンググループを立ち上げ検討していく。）

- ・前田 一郎 理事：ガイドラインとの住み分けについてはどのように考えているのか？
- ガイドラインとかぶる内容となってもよいと考えているが、細胞診専門医または細胞検査士

試験レベルの代表的なものを中心としたアトラス的なものを考えている。内容については今後討議していただければと考えている。(都築 豊徳 委員長)

・佐藤 之俊 理事：ぜひ検討を始めていただきたいと考えている。喀痰細胞診については本学会と肺癌学会において画像を公開しており、それらも盛り込んでシステムにのせられると良いと考える。

→画像をホームページ上のひとつの所に固めた方が見る方にはメリットがあると考え。(都築 豊徳 委員長)

・三上 芳喜 理事：具体的にどのような形で作成を進めることを考えているのか？ 委員会で進める形か？

→基本的には委員会でつめていただいた方がよいと考える。(都築 豊徳 委員長)

・三上 芳喜 理事：個人的には、この学会のコンテンツ（標準化のための画像や過去の試験問題など）を活用すれば、より充実したアーカイブができると考える。

・進 伸幸 理事：雑誌としてまとめることを考えているのか、それともホームページ上に掲載することを考えているのか？

→一番大きなことは、JST にのせることである。直接学会ホームページに入らずとも、JST 経由で細胞学会ホームページの閲覧につなげることで、非会員へのアプローチになると考えている。(都築 豊徳 委員長)

・岡本 愛光 理事長：方向性は良いと考える。編集、学術、資格試験、広報の委員会で検討していただくことになるか？

→WEB にするのか JST というプラットフォームを使用するのかをまず決めていただきたい。(都築 豊徳 委員長)

・岡本 愛光 理事長：JST の方が非会員の方々も見ることができるということで、より対象が広がるということか？

→色々なオプションを出しておくことは重要であると考えている。(都築 豊徳 委員長)

2. 倫理審査をいない新規論文投稿があり、それに対して倫理審査受審を促した。先方より、著者は個人で標本を検鏡していること、倫理審査が可能な施設には属していないこと、それ故に日本臨床細胞学会が提示している倫理申請フローチャートの B2 カテゴリーでの登録を考えていること（添付ファイル参照：当日は参考資料として下さい）、その際の倫理申請先として日本臨床細胞学会の倫理委員会を受け皿として頂きたいとの申し出があった。現在の倫理委員会では倫理審査が想定された体制ではないと考えられる。(資料 2)

参考：

公益社団法人日本医師会倫理審査委員会 JMA Ethics Review Committee | 診療支援 | 診療支援 | 医師のみなさまへ | 日本医師会 (med.or.jp)

https://www.med.or.jp/doctor/sien/s_sien/010842.html

■審査対象

以下の条件を満たす場合に審査依頼を受け付けます。

・研究者が所属する医療機関、所属学会あるいは近隣の医師会等のいずれにも倫理審査委員会が設置されておらず、計画している研究の倫理審査を申請することができない状況であ

ること

・これから新たに開始する人を対象とする生命科学・医学系研究であること（既に開始または終了している研究や国内未承認あるいは添付文書に記載されていない使用方法による医薬品・医療機器の効果等を調べる研究は対象外です）

・対象は医師のみとなる。

審議結果⇒不可（現状では、本学会としては受け入れるシステムがないため受理できない。）

・宮城 悦子 理事：可能性として、指導医はいると思われるので、指導医の所属施設が倫理委員会を有していれば共著にする形で、その施設で審査していただくことが可能であると考え。単独著者として学術雑誌への掲載を望むのであれば、それなりの費用負担についての覚悟が必要ではないか？ 検査士養成コースを持っているような大学であれば、倫理審査を受けてくれる可能性はあるかもしれない。今回、本学会ですぐに対応することは無理であると考え。

→著者が検査士のみという投稿も結構ある。大学などの研究施設ではない一般病院での自発的な研究が宙に浮いてしまうのは勿体ないとも言える。今後、本学会において受け皿を検討していただければと考えている。（都築 豊徳 委員長）

3. 今後倫理審査が困難な投稿者に対する対応を協議して頂きたい。

審議結果⇒継続審議（臨床試験審査委員会で検討していただく）

・伊藤 仁 理事（倫理委員会委員長）：本件に関して倫理委員会でも検討したが、体制を整えることは困難であろうという点と、投稿者側も審査側も倫理講習の受講が必要になる点など様々な問題があり、現時点では無理であろうとの結論に至っている。救済的なものがないかについても検討したが、ないだろうとの結論に至った。前回の理事会では、臨床試験審査委員会で検討していただくとなっていたようであるが…

・渡利 英道 理事（臨床試験審査委員会委員長）：学会の中で倫理審査体制を作るべきであるとの方向性であれば検討していくが、相当きちんとした体制作りが必要であり、かなり困難であると考えている。

細胞診専門医委員会（委員長 近内 勝幸）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 令和5年度細胞診専門医資格更新について

令和5年度の対象者ナンバーは、594-683、1006-1101、1309-1386、1588-1646、1877-2028、2367-2476、2766-2849、3138-3222、3501-3612、8035-8040、8061-8074である。5年毎更新の新単位制度による4回目の資格更新となる。令和6年2月24日（土）に資格更新審査委員会（ハイブリット会議）を開催した。全更新対象者748名中、更新可663名（88.6%）、前回保留更新で今回60単位以上取得で更新可6名（0.8%）、単位充足要審査2名（0.3%）うち1名更新可、単位不足要審査17名（2.3%）うち6名更新可・2名保留更新、未申請38名（5%）、更新辞退11名（1.5%）、退会・退会申請中11名（1.5%）となった。単位不足者にはe-learning等で充足を、未申請者には書類提出を督促中である。

2. 令和5年度教育研修指導医資格更新および新規申請について

資格更新対象者、新規申請者の申請を令和6年3月31日に締め切った。現在事務局で取り

まとめ中である。

3. 令和6年度細胞診専門医資格認定試験について

令和6年度の細胞診専門医資格認定試験は令和7年2月1日（土曜日）に行う予定である。会場はAP浜松町を予定している。細胞診専門医試験委員会委員長は、令和5年度と同様、細胞診専門医委員会委員長が兼任する。試験委員の選定が終了し、第一回委員長・副委員長会議を4月14日に実施した。6月に試験公示予定である。

4. サブスペシャルティ領域専門医について

専門医機構のサブスペシャルティ認定について、本学会は学会認定機構承認としてサブスペシャルティ申請を、日本病理学会を通して令和4年9月に行い日本専門医機構が受理した。その後進展がなく経過していたが、令和5年8月29日に第1回機構認定サブスペシャルティ領域懇談会が開催された。サブスペシャルティ専門研修細則が改定され、機構が指定するカテゴリ1、連絡協議会が指定するカテゴリ2、連絡協議会が認定するカテゴリ3に分類され、再申請後に審査される見込みとなった。本学会はカテゴリ3で申請する予定である。令和5年12月に改訂版サブスペシャルティ領域専門研修細則が確定した。機構からの連絡待ちとなっているが、その時期については未定である。連絡後、再申請が必要となる見込みである。

5. eラーニングについて

eラーニングシステムを構築し2019年2月より運用を開始した。現在、共通講習35コンテンツ（含指導医講習5コンテンツ）、領域講習50コンテンツ、検査士講習35コンテンツが閲覧可能である。

1. 細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定について

2024年3月9日に行われた理事会で、子宮がん検診精度管理アドバイザー・検討ワーキンググループの田畑委員長から、細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定実施に関する施行細則（案）が提出され審議の結果承認された。一方、講習会は2022年から既に始まっており、2024年の6月の春期大会で5回の講習会を修了し資格認定を満たす専門医があらわれる。そのため初回認定準備が必要となる。実際の認定業務については、書類審査のみと考えられるが、資格認定委員会を立ち上げる必要がある。この実務について、ワーキンググループで行うのか、専門医委員会で行うのかを4月27日に行われた理事会で問い合わせを行った。田畑委員長が欠席で、代理の阿部仁委員から確認して連絡するとの回答を得た。その後、田畑委員長より、認定業務については細胞診専門医委員会に実務を依頼するとの連絡があった。そこで今後認定業務について検討していきたい。

〔審議事項〕

なし

質疑：

・田畑 務 副理事長（子宮がん検診精度管理アドバイザー・検討ワーキンググループ委員長）：認定業務をどこで行うかについては、今年度は医師の認定業務のみであり、細胞診専門医委員会で検討していただく形とした。3年後には細胞検査士の方々も認定制度に加わってくることになると思われ、その時にはもう少し広げた認定の場所を選ぶべきか検討が必要となる。

→実際の認定業務に関しては、書類審査のみとなるので認定委員会を立ち上げなくても可能ではある。認定委員会を立ち上げるとなると、理事会での承認が必要となり、細則の変更が必要となるかもしれない。(近内 勝幸 委員長)

・三上 芳喜 理事: 今後はじまる細胞検査士のアドバイザーの認定体制も構築しないと行けない。早めに、細則変更も含め指示をいただければ、細胞診専門医委員会と連携して準備を進めていく。

施設認定制度委員会 (委員長 長尾 俊孝) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2024 年度 新規施設認定について
 - 3 施設の申請があり、審査の結果認定された (イエローページに掲載予定)。
 - 1012 大津赤十字病院
 - 1013 京都中部総合医療センター
 - 1014 小田原市立病院
2. 2024 年度 新規教育研修施設認定について
 - 2 施設の申請があり、審査の結果認定された (イエローページに掲載予定)。
 - 0358 近江八幡市立総合医療センター
 - 0359 静岡県立総合病院
3. 2023 年度 認定施設 更新状況
全更新対象施設数：60 施設、更新可：57 施設(95%)、廃止施設：3 施設(5.0%)
4. 2023 年度 教育研修施設 更新状況
全更新対象施設数：236 施設、更新可：232 施設(98.3%)、失効：3 施設 (申請書・実施年報未提出のため)、廃止施設：1 施設(0.4%)
5. 2024 年度 認定施設 更新状況 (2024 年 5 月 21 日時点)
全更新対象施設数：643 施設、更新可：594 施設(92.4%)、不備有未完了：4 施設 (0.6%)、未申請：34 施設 (5.3%)、更新辞退：8 施設 (1.2%)、施設廃止施設：3 施設 (0.5%)
更新可施設へは 6 月中旬を目途に新認定証を発送予定。
6. 2024 年度 教育研修施設 更新状況 (2024 年 5 月 21 日時点)
全更新対象施設数：21 施設、更新可：19 施設(90.5%)、未申請：2 施設 (9.5%)
更新可施設へは 6 月中旬を目途に新認定証を発送予定。
7. 2023 年度 認定施設年報提出状況 (2024 年 5 月 21 日時点)
全 854 施設中 提出：849 施設(99.4%)、未提出：5 施設(0.6%)
8. 2023 年度 教育研修施設年報提出状況 (2024 年 5 月 21 日時点)
全 330 施設中 提出：322 施設(97.6%)、未提出：8 施設(2.4%)
9. 2023 年度・内部精度管理 (実地調査 2カ所、書類調査 2カ所) :
内部精度管理 WG (浦野誠 WG 長) のもとで実施 (4 施設全て「A：良」の判定)

〔審議事項〕

なし

細胞検査士委員会（委員長 三上 芳喜）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2024年度(第57回)細胞検査士資格認定試験の公示を7月10日(水)に行う
 - a. 一次試験：2024年10月26日(土)に CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館（大阪府大阪市東淀川区）にて実施予定。
 - b. 二次試験：2024年12月7日(土)・8日(日)に、杏林大学三鷹キャンパス（講義棟）（東京都三鷹市）にて実施予定。

〔審議事項〕

なし

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 井上 健）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2024年度細胞検査士資格更新予定者
1830-2067、2693-2912、3667-3931、4726-4941、5619-5812、6370-6573、
7209-7449、8159-8317、9152-9364、10150-10384

2. 2023年度細胞検査士資格更新者
全 2096名
更新可 …1931名 (92.1%)
条件付き更新可…11名 (0.5%)
保留更新 …5名 (0.2%)
更新辞退 …27名 (1.3%)
資格失効 …19名 (0.9%)
退会済 …101名 (4.8%)
逝去 …2名 (0.1%)

計 2,096名

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 横山 良仁）（資料あり）

〔報告事項〕

1. 2024年度 各種セミナー開催予定

講習会	開催日	開催地・実施委員長
-----	-----	-----------

第133回細胞検査士養成講習会	2024年7月14日(日) ～26日(金)	場所:杏林大学保健学部実習室(井の頭キャンパス) 実行委員長:阿部 仁(がん研有明病院) 現地実習+現地講義、受講人数:40名予定
第49回細胞診断学セミナー	WEB講義視聴期間 2024年9月9日(月) ～9月27日(金)	WEB開催 教育委員会委員長 受講者数制限なし
第84回細胞検査士教育セミナー	WEB講義視聴期間 2024年8月23日(金) ～9月9日(月)	WEB開催 実施委員長:仲村 武(神奈川県立がんセンター医療技術部検査科病理検査室) 受講者数制限なし
第88回細胞検査士ワークショップ	鏡検実習日 2024年9月21日(土) WEB講義視聴期間 2024年9月24日(火) ～10月7日(月)	場所:札幌医科大学教育研究棟 実行委員長:藤岡 学(札幌徳洲会病院) 現地実習+Web講義 講義と現地実習受講人数:40名 講義のみは人数制限なし
第89回細胞検査士ワークショップ	2025年2月または3月予定	ハイブリッド開催 場所・実施委員長 検討中

2. 細胞検査士養成講習会の講義テキストについて:PDF化として印刷費の予算削減を図った。(資料)
3. 細胞診断学セミナーのバーチャルスライド化について、福岡大学病院病理部技師長の松本慎二先生から講義を受ける。

[審議事項]

なし

質疑:

- ・長尾 俊孝 理事:バーチャルスライドで行っていたコントロールサーベイの問題がだいぶ蓄積され、すでに解説も付いているものであり、ご利用いただければと思う。
- ・岡本 愛光 理事長:細胞検査士資格認定試験のあり方ワーキンググループでも、試験へのバーチャルスライドの導入が検討されており、横山 教育委員会委員長にも加わっていただき議論していただきたい。
- ・前田 一郎 理事:まとめて画像を閲覧できるような方向性で、適量(多すぎるとAIに使用される恐れがある)を公開することを考えることが良いのではと考える。

・三上 芳喜 理事：前田 一郎 理事も横山 良仁 理事も細胞検査士資格認定試験のあり方ワーキンググループに入っていたり、今後議論を進めていきたい。

・長尾 俊孝 理事：WEB 上でバーチャルスライドを上げる件について、コントロールサーベイの方でも検討中であり、ある企業と接触しているが滞っている状態である。今後、学会としてまとめたサイトを作成していただけるとありがたい。

渉外・広報委員会（委員長 森定 徹）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。
4. 「日本臨床細胞学会の著作物の転載に関する要領」、「転載許諾申請書」について案を作成し、制度審議委員会で審議をいただき認可を受けた。本件は 2023 年度第 3 回理事会において承認をいただいた。
5. 外部より転載許諾の申し出があった際には、渉外・広報委員会が窓口として受付けた後に関係委員会へ振り分けを行う。
6. 本学会ホームページのトップページのお知らせ欄に以下の通知を掲載していただいた。
 - ・「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（指針）一部改訂の公表
 - ・「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」の公表

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 令和 8 年度診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚生労働省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。
 - (ア) 今後のスケジュール
 - ① 令和 6 年 11 月ごろ 内保連の提案意向調査
 - ② 令和 7 年 2 月から 4 月 内保連へ提案書提出
 - ③ 令和 7 年 5 月 内保連のヒアリング
 - ④ 令和 7 年 6 月 厚労省へ最終提案書提出
 - ⑤ 令和 7 年 7 月 厚労省ヒアリング
2. 令和 6 年 1 月 10 日付、中部審査事務センターからの中部ブロックにおける審査上の取扱い（ブロック取決）について。
 - 「検査または手術で採取された同一検体（同一日採取）における組織診と細胞診の併算定は、

原則として認められない。」と発表された。

令和6年6月からセルブロックとROSEの適応拡大が開始されることから、これらの新技術に対する審査状況を確認して（令和6年7月末ごろ）、疑義解釈を提出するかどうかを検討する予定。

3. 日本病理学会が作成の「分子病理診断を目的とした遺伝子異常の検索（パソロジカルシーケンス）を保険診療下で実施することに関する要望書」に日本産科婦人科学会などとともに共同提案学会として参加する。（6月10日に秋野公造参議院議員が厚生労働委員会において質問して下さる予定。）

〔審議事項〕

なし

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2022年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行った（資料）。
2024年5月17日開催の全国地域代表者会議で、集計結果の報告を行った。
2. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について：
2024年度の地域連携組織に対する活動支援は、助成金5万円を上限とし、希望する地域学会は2024年3月末日までに、申請書を提出するように依頼を行った。
申請件数44件（47件中）
（申請中止 3件：奈良、山口、徳島）

〔審議事項〕

なし

国際交流委員会（委員長 山口 倫）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 第4回JHU-ASC-JSCC joint cytopathology courseについて。
本総会において、岡本理事長、長村監事、西野国際交流委員会担当理事・委員長(山口)、有廣第64回秋期大会会長と会議予定。（学会の前日をメインにして、2日目にさらに講演をお願いできないか検討中）
2. 2025年の第66回春期大会田畑会長、第64回秋期大会有廣会長とグローバルアジアフォーラムについて今後の方向性を検討する予定。
3. 日韓交流 9月開催予定

〔審議事項〕

なし

制度審議委員会（委員長 宮城 悦子）【資料なし】

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 伊豫田 明）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 医療安全セミナー、感染対策セミナー開催

第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会

■医療安全セミナー

演題名：変動し不確実で複雑なシステムにおける安全マネジメント

座長：神戸大学大学院医学研究科 地域社会医学・健康科学講座地域連携病理学分野教授
河原邦光先生

演者：大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部 部長 中島和江先生

日時：2024年6月8日（土）14時40分-15時40分予定（会期：2024年6月7日-9日）

■感染対策セミナー

演題名：次の新興再興感染症に備える ～COVID-19 から学んだこと～

座長：近畿大学奈良病院 病理診断科 教授 若狭朋子先生

演者：大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 教授 忽那賢志先生

日時：2024年6月9日（日）13時30分-14時30分予定（会期：2024年6月7日-9日）

第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会

■医療安全セミナー

演題名：病理細胞診検査における医療安全 ―制度の維持と業務管理―

座長：千葉県がんセンター 婦人科 田中尚武先生

演者：順天堂大学医学部人体病理病態学 青木裕志先生

日時：2024年11月16日（土） 17時-18時 （会期：2024年11月16日-17日）

■感染対策セミナー

演題名：新型コロナウイルス感染症の総括 ―来るべき感染症に備えて―

座長：神奈川県立がんセンター 婦人科 近内勝幸先生

演者：国際医療福祉大学医学部感染症学・代表教授 松本哲哉先生

日時：2024年11月17日（日） 11時-12時 （会期：2024年11月16日-17日）

2. 2024年4月11日開催の委員会において、学会ホームページ「医療安全委員会 HOTLINE の利用について」について改訂することとなった。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関する WG から、以下の依頼があり委員会で審議を行った。

「多施設より HPV 陽性症例の LBC 標本を集め検討することとなり、検討結果については学会発表、最終的には論文化する予定である。検鏡の際に名前を隠して番号のみとすれば問題ないかと考えているが、倫理委員会としての見解を伺いたい。」

審議の結果、各施設の倫理委員会を通してから検討頂く必要があり、特に論文化に際しては必須であるとの倫理委員会としての意見を WG 委員長に回答した。

2. 編集委員会から倫理審査が可能な施設には属していない投稿者に関しての（救済的な）対応策について検討依頼があった。

検討の結果、問題点についての意見が多く、具体的対応策についての意見は得られなかった。

〔審議事項〕

なし

質疑：

・田畑 務 副理事長：子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関する WG において、HPV 検査単独法が今後進んでくるといことで、HPV 陽性症例の細胞診の取り扱いが問題となってきている。HPV 陽性症例の LBC 標本を集め検討することについて倫理委員会で検討していただいた結果、各施設での倫理審査を通す必要があるということになり、現在プロトコールを作成中である。

・宮城 悦子 理事：多機関共同研究として研究を行う場合は、各施設の倫理委員会を通してからとなると色々なプロトコールが出てきてしまう可能性もあり、審査のステップについては検討の余地があると思う。例えば日本産科婦人科学会では、学会の倫理委員会からお墨付きを出し代表施設の倫理審査を通し一括審査とする形をとっている。

・田畑 務 副理事長：ステップとしては、作成したプロトコールを臨床試験審査委員会で検討していただき、本学会が認めたプロトコールとして各施設の倫理審査を通していくことを考えている。

・宮城 悦子 理事：一括審査の場合は、代表施設において倫理審査が通れば他の施設は病院長許可のみの簡便な手続きで可能である。

・都築 豊徳 理事：本学会としては倫理申請を受け付けないことになっており、子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関する WG から倫理委員会へ依頼することは筋が通らないことになるのではないかと。

・田畑 務 副理事長：まず、どちらかの施設において代表一括審査として倫理審査を通す方向がよいということか。

・宮城 悦子 理事：代表一括審査として提出するプロトコールとしては適正であることを本学会倫理委員会から頂いて、その意見書を付けて出すと印象が良くなると思われる。

利益相反委員会（委員長 大平 達夫）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導を行う。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。
3. 役員および委員会委員で対象となる方々より COI の自己申告を申請いただいた。前回より郵送を廃止したが、問題なく完了した。
4. 第 8 回研究倫理教育研修会に参加した。

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会 (委員長 渡利 英道) 【資料なし】

〔報告事項〕

新規臨床試験の審査依頼なし。

〔審議事項〕

なし

質疑：

- ・渡利 英道 理事 (臨床試験審査委員会委員長)：編集委員会の議題に出た、学会の中に倫理審査体制を構築できるかについて委員会内で検討していく。その検討にあたり、本委員会名称は臨床試験審査委員会より臨床研究審査委員会とする方がわかりやすいと考えている。
- ・学会事務局：委員会名の変更については理事会での審議をしていただいた方がよい。
- ・進 伸幸 理事：委員会名称変更については、臨床試験審査委員会内で議論していただいた上で理事会の審議事項としてあげていただき検討する段取りとする。

IAC 連絡委員会 (委員長 佐藤 之俊) 【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2024 年 6 月の ECC2024 で IAC 理事会が開催予定。
2. ECC2024 (ドイツ ライプツィヒ) のプログラムにおいて、日本からのコンパニオンミーティング開催の要望があり企画した (資料 1)。
3. IAC の入会、更新について、現在の本学会施行細則では、JSCC の会員が個人で入会・更新等を行うことができないと記載されているが、直接 IAC へ入会や更新手続きを行っている事例がある。これについて今後検討していく。
4. The 22nd International Congress of Cytology 2025 は、2025 年 5 月 11-15 日にイタリア フローレンス Fortezza da Basso にて開催予定 (資料 2)
5. 次回の IAC 国際試験からデジタル化される。なお、IAC のホームページに模擬試験サイトが公開されている。

〔審議事項〕

なし

臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市)の進行状況：
 - ① 本研究では、2013～2014 年度に研究参加した子宮頸がん検診受診者の初年度以降のデータの収集を研究事務局、データセンター（神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター）、EDC 管理担当（メディカルエッジ）、関係医療機関と協力して完了した。2022 年 11 月に統計解析責任者・担当者の同席のもと、症例検討会を開催し、データの固定を完了した。さらに 2023 年 5 月に統計解析計画書(3.0 版)に則った統計解析報告書(1.0 版)を受理した。現在はこの統計解析報告書をもとにデータの検討と論文化を進めている。本ワーキンググループに関してはこの検討と論文化が完了した時点での解散を計画している。
 - ② 論文公表時には、研究開始当初よりホロジックジャパン株式会社より研究資金、研究資材の援助を受けたこと、本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。本研究の成果について、第 65 回春期大会（森井会長）で最終報告を行う予定である。
 - ③ 2024 年 4 月 3 日に臨床試験ワーキンググループ委員会を web 開催し、本研究の主任研究者である青木大輔先生と、事務局担当の森定徹先生より、解析結果について説明がなされた。質疑応答が行われ、第 65 回春期大会での最終報告に備えることとした。（資料 1）
 - ④ 研究フィールドである山梨県および柏市での現地最終報告会に関する追加予算を 4 月 27 日の理事会で承認いただいた（日程は山梨県：2024/6/18(火)、柏市：日程調整中）。

〔審議事項〕

1. 追加解析について

CITRUS study は、データセンターと契約を結び統計解析計画書に沿ってプライマリーアウトカムを出すため、契約期限の 2024 年 3 月 31 日まで仕事をしていただいた。国の指針が HPV 単独検診の方向に動いたことにより、HPV 単独検診について CITRUS study から導き出されるなんらかの知見を公表しなければならないと考えている。そのためには当初の統計解析計画書になかった部分の統計解析をお願いしなければならないと、再度同じデータセンターと契約を結びたいと考えている。費用的な面は、PI の青木先生が負担して下さるため、費用負担を学会にかけるということはない。TRI から、契約先が本学会から青木先生になることに関して許諾を得るべきではないかとのことで、新たに青木先生と TRI で契約を結ぶことについてご審議いただきたい。

審議結果⇒承認

- ・青木 大輔 細胞診専門医会会長：研究費を私の方から出すにあたり、TRI と私との契約にして

おかないとスムーズに進まないだろうということもあり、このようなアクションをとることを学会の方でお認めいただきたい。

・前田 一郎 理事：その結果は本学会に還元していただいて、発表していただくことになるのか？

・森定 徹 理事：本学会名や acknowledgement 等々を付けて論文に記載する。

・進 伸幸 理事：論文化の際には本学会からの資金援助について記載する予定であり、今後の新たに得られた解析結果も本学会へ還元される。

・青木 大輔 細胞診専門医会会長：データとして使えるところは使っていただくということに関しては吝かではない。このスタディは本を正すと 2013 年まで遡り、ホロジックから研究費が出ており、ホロジックは日本臨床細胞学会との契約で動いている。その後 TRI から、特定臨床研究にすべきだということを指摘され、データセンターがそれ以上動けないということがあり特定臨床研究に移行するのに多大な費用を学会の方から負担していただいた。このような経緯から学会の行う臨床試験という位置づけに変わりはない。

岡本 愛光 理事長：貴重なデータがあり、追加解析によってさらに重要な成果が期待できると思われ、お認めしたい。

・青木 大輔 細胞診専門医会会長：もしそのデータを使って学会が解析を行いたいという場合には、TRI に対し費用が発生することはご理解をいただきたい。

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）【資料なし】

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証している。
2. タイトに委員会を開催しており、実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画の最終段階である。
3. 特に NGS を用いた実証実験、臨床検体を用いた実証実験について中心に進めている。
4. 案がまとまれば、理事回覧、パブコメを募って、改訂版を確定する予定である。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ

（委員長 佐藤 之俊）【資料なし】

〔報告事項〕

1. がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針の第 2 版の作成に協力した。なお、第 2 版では臨床検体の実証実験が主体であり、今後は日本肺癌学会のバイオマーカー委員会と連携した検討を考慮する予定である。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊） 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 日本肺癌学会の肺癌取扱い規約第9版「細胞診」の作成に協力した。
2. 腺癌・扁平上皮癌の細胞診断の標準化（細胞診で腺癌と扁平上皮癌を鑑別するための構造所見の定義と細胞所見）に関する検討を進めた
3. Intra-interobserver variability 研究（呼吸器細胞診報告様式に関する検討）は「New WHO Reporting System for Lung Cytopathology: Reproducibility Test of the Diagnosis and Usefulness of an Online Tutorial System for the New Cytological Categorization」という論文として Acta Cytologica に投稿した。また、異型細胞に関する研究は日本臨床細胞学会雑誌に投稿した。
4. ECC2024 の companion meeting (2024 年 6 月) において本 WG の検討内容を発表する（南委員）。
5. 上記 3 の論文発表をもってワーキンググループ活動を終了とする予定である。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也） 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 乳癌取扱い規約（日本乳癌学会）の改定に際し、掲載されるよう働きかけを行っている。
2. 研究成果のまとめについて論文化を進めている。（現在、査読待ち）

〔審議事項〕

なし

デジタルサイトロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎） 【資料あり】

〔報告事項〕

1. 「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き（第二版）」病理学会 HP に掲載（資料 1） (<https://www.pathology.or.jp/jigyou/-4.html> pdf)
2. 「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き（第二版）」利用に関する覚書（資料 2）
3. A チーム 病理デジタル化機器調査，解析アプリ調査
4. B チーム デジタルパロソロジー/デジタルサイトロジー・LBC の調査（資料 3）
5. 60 例の典型例開示のための症例選定を行っている（資料 4）

〔審議事項〕

1. 日本臨床細胞学会 HP 内, デジタルパロソジ/デジタルサイトロジ・LBC の調査 (資料 3) の開示許可

審議結果⇒継続審議 (年報 WG の報告内容を確認・協議の上で、改めて審議事項としてあげていただく)

・進 伸幸 理事：公開してほしいというのは会員からの要望があったということか？

→そうである。(前田 一郎 委員長)

・佐藤 之俊 理事：使用しているシステムのメーカー名も含めて公開を考えているのか？

→会社名は削除したものを掲載した方がよいか？ (前田 一郎 委員長)

・青木 大輔 細胞診専門医会会長：HPV プライマリーの検診がやれるようになって、液状検体に関して現場の医師がどの程度の認知度があるのかについて、自治体としては関心があるのだと思われる。そのような背景で、アンケート結果開示の要望が出てきたのかもしれない。自治体の検診は、がんセンターががん検診の実施状況報告を施行しており、それぞれの自治体の液状検体の使用の有無が報告されており、60 数%に液状検体が入っているというデータがある。病院については、液状検体加算からおおよそのところはつかむことができ、50%前後と思われる。今回アンケート結果を公開するのであれば付加的なデータとして少し入れていただいてもいいのかと考えている。

→大病院、20~400 床までの病院、健診センター、衛生検査所のように保険診療と保険診療外の施設の割合は、出すことは可能である。(前田 一郎 委員長)

・青木 大輔 細胞診専門医会会長：

人間ドックのような自費で行われている任意型検診で、どの程度のシェアがあるのかのデータがないことから、このようなアンケート結果は重要であると考えます。

・佐々木 寛 監事：日本人間ドック学会理事としてコメントすると、学会が認定している約 450 施設ではデータが取られており約 8 割が LBC を使用していることがわかっている。このようなデータがあるので、日本人間ドック学会にご依頼いただければデータをお出しすることは可能である。一方で認定していない約 1600 施設では 2 割程度のようなものである。

→衛生検査所は、検体が診療所からも出ているので人間ドックのものを反映していない可能性がある。(前田 一郎 委員長)

・若狭 朋子 理事：認定施設の年報 WG から、2022 年の LBC の普及率をまとめ明後日に発表予定である。そのデータとの齟齬がないかの確認をさせていただきたい。

→齟齬がないことを確認した上で、LBC の部分だけ少し細かいデータにして載せるということではよろしいか？ (前田 一郎 委員長)

・若狭 朋子 理事：そうすると逆に今度は年報のデータもどうやって公表するのかという話になる。

→細胞学会としては、アンケート調査結果ということでお知らせ欄のようところに掲載し、必要があれば部分的に書き換えるということではいかがか？ (前田 一郎 委員長)

・若狭 朋子 理事：心配点としては、同じ日本臨床細胞学会のホームページに年報 WG からの報告と今回のアンケート調査結果と一緒に掲載されることになり、細かく見ていくと齟齬が見つかり問題となることではないか。

・進 伸幸 理事：アンケート調査は、Google 調査で任意の回答に関して集めたものであり、各施設全体が報告したわけではないかもしれないということか？

→そうである。(前田 一郎 委員長)

・森谷 卓也 理事：ただ単にグラフを出すと色々な取り方をされるので、最初にどういう取り方をして結果がどうだったかというエッセンスを記載していただくと、年報 WG の報告とパッシングしないと思われる。また、個人的にはベンダーの名前を出すと、販促に関係があるのであまり好ましくないと思う。そのあたりを検討していただきたい。

→ベンダー名は削除し、少し概要を説明した文章を上に加えて公開する感じでよいか？(前田 一郎 委員長)

・若狭 朋子 理事：データは独り歩きしだしたら怖い。

・森井 英一 副理事長：アンケート結果に森谷 卓也 理事が指摘されたようなコメントを付けた上で、若狭 朋子 理事と年報の内容について確認・話し合いをしていただいてから、次の方策を考えるのがよいと考える。

公益社団法人化 10 周年記念事業検討ワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)

【資料なし】

〔報告事項〕

1. 記念誌の増補版を発行した。
2. 法人化 10 周年記念講演会・祝賀会を 2024 年 4 月 28 日 (日) に東京国際フォーラムにて開催した。
3. 広報活動については、
 - ・本学会 WEB サイトに細胞アートクルーズが公開され、プレスリリースを行った。(反響もあり時事通信から取材も受けている。)
 - ・PR 活動について、時事通信からの取材を受けた。また、Good Design Award に応募する。
 - ・一般向けのイベントとして、6/9 (春期大会にて) と 8/4 (慈恵医大にて) に細胞アートワークショップ開催予定である。
4. 本 WG の活動は 8/4 のイベントをもっていったん終了予定とする。

〔審議事項〕

なし

膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ (委員長 平林 健一) 【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2024 年 5 月 13 日 19:00-20:00 にワーキンググループオンライン会議を開催した。
会議内容：
 - ① 異動や今後の学術的検討のため、細胞検査士委員を改選することとした。
 - ② 富山県内の施設を対象とした腹腔細胞診に関するアンケート調査を報告。富山県内のアンケート結果を踏まえ、全国調査を行うことを計画した。アンケート内容については、今後ワーキンググループ内で検討することとした。

- ③ 膵癌腹腔細胞診診断一致率とスコアリングシステム策定についての研究案を議論。内藤委員が現在主導している日本臨床細胞学会班研究「胆汁細胞診における新たな診断区分の確立」をベースに今後研究内容を再検討することとした。

〔審議事項〕

なし

子宮がん検診精度管理アドバイザー・検討ワーキンググループ（委員長 田畑 務）

【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2024年4月8日 Zoomにて委員会を行った。

これまで、子宮頸がん検診への HPV 検査単独法の導入が厚生労働省から出されるとの情報
を基に、『子宮頸がん検診精度管理アドバイザー・検討 WG』を立ち上げた。HPV 検査単独法
が検診の主流となった場合は、細胞診検体数の減少が考えられ、細胞検査士の方々ががん
検診事業でも深く活躍できる場を作ることを目的としたものであった。その後、細胞診専
門医のみの認定であった「細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定」に細
胞検査士の方々も加わることが可能となり、一定の成果が得られたものと考えられた。今
後は、『子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関する WG』（旧 ASC-US 検討委員
会）において、HPV 単独検診時の HPV 陽性症例における細胞診判定について検討すること
となった。

〔審議事項〕

なし

細胞検査士資格認定試験のあり方に関するワーキンググループ（委員長 三上 芳喜）

【資料なし】

〔報告事項〕

1. WG のメンバーを確定し、委嘱状を送付した（4月16日）。今後日程を調整し、7～8月に開
催する予定である。

〔審議事項〕

なし

子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関するワーキンググループ

（委員長 田畑 務） 【資料あり】

〔報告事項〕

2. 2024年3月26日に Zoomにて委員会を行った。

子宮頸がん検診に HPV 検査単独法が導入されてその運用が複雑になり、子宮頸がん検診の精
度管理が重要となってきている。その精度管理を行う上で重要なことが二つあり、それは ①臨

床検査と②検診プログラムとしての精度管理である。臨床検査については、HPV 検査単独法で行う場合、LBC 検体を用いて行う HPV 検査、ならびに HPV 陽性者に行われる細胞診が重要である。HPV 検査については各企業による精度管理が行われているが、細胞診については、HPV 陽性症例ということで ASC-US 以上とする傾向にある。唯一の細胞診判定機関である日本臨床細胞学会としては、今後、LBC での細胞診の診断方法の指針となるべきものを示していくこととなった。

〔審議事項〕

なし

質疑：

・都築 豊徳 理事：「HPV 陽性症例ということで ASC-US 以上とする傾向にある」というのは、なんらかの統計データに基づくものか、それとも委員会の先生方のインプレッションなのか？

→統計はとっていない。委員会内でのインプレッションである。(田畑 務 委員長)

・藤井 多久磨 理事：HPV 感染者は、マイクロバイームの変化が正常者と異なると予想されており、形態で見る細胞の異常をどのように解釈するのかは非常に難しいと思われる。だからこそ HPV 検査が出てきたと思う。ASC-US 標本を多施設から集める検討でエンドポイントを何にするかは、パイロットスタディがありきだと考える。きちっとしたラショナーレのもとで多施設での検証をするべきであると考え。

・岡本 愛光 理事長：藤井 多久磨 理事も都築 豊徳 理事にもワーキンググループに加わっていただくとよいのではないか。

→きちっとしたラショナーレがない状況の中で、HPV 検査単独法がどんどん進んでいるために本ワーキンググループを立ち上げた。ラショナーレがあって、きちっとしたプロトコールができあがるとは考えておらず、もうこれは動かないといけないということで動いている次第である。

(田畑 務 委員長)

2025 年度・2026 年度評議員選出委員会 (委員長 森井 英一) 【資料あり】

〔報告事項〕

1. 4 月 23 日に評議員選出委員会を開催し、評議員候補を選出した。辞退について確認している。
2. 次回の評議員選出のためのフォーマットの改定作業を総務委員会とともに行う予定である。

〔審議事項〕

1. 2025・2026 年度評議員について審議をいただきたい。
審議結果⇒承認 (451 名の候補者について承認された。)

その他

〔報告事項〕

1. 2025・2026 年度理事候補選挙スケジュール (0.03_2025・2026 年度理事候補選挙スケジュール)
2. 今後のスケジュール (0.04_2024 年度日本臨床細胞学会予定表)

〔審議事項〕

1. 会員資格停止者について (0.05_会費滞納者一覧)

審議結果⇒承認 (2年をこえる会費滞納者の資格停止が承認された。)

2. 会員資格復帰希望者について (0.06_会員資格復帰希望者)

審議結果⇒承認 (5名の復会が承認された。)

3. 2027年度(第68回)春期大会長選出について

1名の応募があり、大会長の選出メンバーにおける厳正な審査の結果、横山 良仁 理事(東弘前大学 産婦人科)を推薦することとなった。

審議結果⇒承認

学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会を中断して行われた。

理事長 岡本 愛光

副理事長 森井 英一、田畑 務

学術委員会委員長 前田 一郎

(役員等選任に関する施行細則第2条より)

4. 理事候補選挙管理委員会委員長承認(0.09_2025・2026年度理事候補選挙管理委員会(案))

審議結果⇒承認(森井 英一 副理事長が委員長として承認された。)

5. 理事候補選挙管理委員会(案)承認(0.09_2025・2026年度理事候補選挙管理委員会(案))

審議結果⇒承認(2025・2026年度の理事候補選挙管理委員会案(下記)が提示され、承認された。)

委員長: 森井 英一 (副理事長)

総務担当理事: 佐藤 之俊、澁木 康夫

理事:

1) 婦人科系からの委員

進 伸幸、田畑 務、西野 幸治、森定 徹、山下 博

2) その他の領域からの委員

病理: 井上 健、都築 豊徳、羽場 礼次、前田 一郎、三上 芳喜

外科: 伊豫田 明、大平 達夫

3) 細胞検査士: 阿部 仁、伊藤 仁

幹事(総務委員会幹事): 片岡 史夫、星 利良、和田 直樹



6. 理事候補選挙地方比例配分(案)の承認(0.11_2025・2026年地方比例配分(案))

審議結果⇒承認

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、岡本 愛光 理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2024年6月25日

この議事録が正確であることを証します。

理事長	岡本 愛光	
監事	長村 義之	
監事	佐々木 寛	
監事	土屋 眞一	